

## 「経営比較分析表」補足説明

### 「経営比較分析表」における団体区分(上水道事業)

末端給水事業: A (給水人口規模によりA1～A9及び政令市等に細分化)

用水供給事業: B (細分化なし)

### 経営指標の概要

#### 1. 経営の健全性・効率性

指標	算出式	指標の意味	分析の考え方
①経常収支比率(%)	経常収益/経常費用×100	当該年度において、給水収益や繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す	・100%以上(=黒字)が必要である
②累積欠損金比率(%)	当年度未処理欠損金/(営業費用－受託工事収益)×100	営業収益に対する累積欠損金の状況を表す	・0%(=累積欠損金発生なし)が求められる
③流動比率(%)	流動資産/流動負債×100	短期的な債務に対する支払能力を表す	・100%以上が必要である ・流動負債には企業債等が含まれており、将来、給水収益等により償還・返済の原資を得ることが予定されている場合は、一概に支払能力がないとはいえない
④企業債残高対給水収益比率(%)	企業債現在高/給水収益×100	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う ・投資規模や料金水準の適切性を分析する
⑤料金回収率(%)	供給単価/給水原価×100	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す	・100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われている ・適切な料金収入の確保が出来ているか分析する
⑥給水原価(円)	(経常費用－不用品売却原価等－長期前受金戻入)/年間総有収水量×100	有収水量1㎡あたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う ・必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要である
⑦施設利用率(%)	一日平均配水量/一日配水能力×100	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う
⑧有収率(%)	年間総有収水量/年間総配水量×100	施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標である	・100%に近いほど施設の稼働状況が収益に反映されている

#### 2. 老朽化の状況

指標	算出式	指標の意味	分析の考え方
①有形固定資産減価償却率(%)	有形固定資産減価償却累計額/有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価×100	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度を示す	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う ・数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいている
②管路経年化率(%)	法定耐用年数を経過した管路延長/管路延長×100	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度を示す	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う ・数値が高いほど法定耐用年数を超過した管路を多く保有している
③管路更新率(%)	当該年度に更新した管路延長/管路延長×100	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる	・明確な数値基準はない ・経年比較や類似団体との比較等を行う ・数値が1%の場合、全ての管路を更新するのに100年かかる更新ペースである